

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4075500548		
法人名	有限会社 ウェルハート		
事業所名	グループホーム 幸生園		
所在地 (電話番号)	福岡県宮若市龍徳 1488番地 (電話) 0949-34-7575		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2-2-51		
訪問調査日	平成20年2月4日	評価確定日	平成20年2月18日

【情報提供票より】(20年1月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	平屋 木造 造り	
	1階建ての 階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 250 円	昼食 450 円	
	夕食 450 円	おやつ 50 円	
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(1月17日現在)

利用者人数	18名	男性 3名	女性 15名
要介護1	2名	要介護2	7名
要介護3	6名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 73.5歳	最低 59歳	最高 88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江口内科クリニック、宮田病院、町立鞍手病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、平屋造りの広い建物で、静かな住宅地に位置し、緑が多く穏やかな環境で、庭も広く野菜や季節の花々を育て、天気の良い日には庭で昼食をとるなどしてのんびりと過ごすことができる。さまざまなボランティアをホームに招き生け花教室や陶芸、囲碁など楽しみごとの支援も充実している。各ユニットの風呂とは別に大浴場があり温泉気分を楽しむ事ができるのも魅力の一つである。職員はホームのスケジュールではなく利用者のペースを大切にしてくれることを重視し、明るく笑顔で利用者に対し、活気のあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、職員も一緒に食事を楽しむこと、洗剤など注意が必要な物品の管理や市からの委託事業の受け入れなどが挙げられ、職員や市と話し合い改善へ向けての取り組みがなされている。食事に関しては試行錯誤の結果、利用者の状況を考え一緒に食事はとっていない。共に暮らすなかで一緒に食事を楽しむことの大切さを考え、可能な範囲で横に座り1品だけ、お茶だけでも頂きながら、同じ目線に立って食事の時間を過ごす工夫が望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者と職員の代表が全職員の意見を聞き取りして作成している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議はこれまでに7回、おおむね3ヶ月に一度開催している。区長、民生委員、市健康推進課職員、家族代表、代表者とホーム長が参加して、ホームの成り立ち、現状報告や活動報告、意見交換を行っている。会議での意見を活かした取り組みもなされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族の面会時に話を聞き、意見や苦情を聞く場としているがあまり言われることはない。また、玄関に意見箱を置いたりホーム内および外部の相談窓口を運営規程に明示し、家族が意見や苦情を表せる機会を設けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入っており、地域での夏祭りなどの催しや、小学校の運動会の見学、老人会へ代表者が参加したりと、積極的に地域へ出て行き交流をしている。ホーム主催の夏祭りには家族や地域住民70名程が参加された。今後は地域で暮らす高齢者との関わりの場を持つことを市と協力し検討中である。近所の方とはおすそ分けを頂いたり介護相談を受けるなど、良好な関係が保たれている。</p>

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	明るく、優しく、元気よく」という理念を掲げ、せかせかと職員のペースで仕事をせず、利用者のペースに合わせ、忙しくても笑顔で接することを重視している。開設後から理念の見直しは行っていない。		今回の評価をきっかけに、一度職員全員で理念を見直し、地域でのホームの役割を含めた理念を検討することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入口や事務所等に掲示し、申し送りやミーティングで日々のケアが理念に通じるものであるかを職員全員で振り返り、気づきがあればその都度話すことで、職員の意識を統一し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、地域での夏祭りなどの催しや、小学校の運動会の見学、老人会へ代表者が参加したりと積極的に地域へ出て行き交流している。ホーム主催の夏祭りには家族や地域住民70名程が参加された。今後は地域で暮らす高齢者との関わり場の場を持つことを市と検討中である。近所の方とはおすそ分けを頂いたり、介護相談を受けるなど、良好な関係が保たれている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価では、職員も一緒に食事を楽しむこと、洗剤など注意が必要な物品の管理や、市からの委託事業の受け入れなどあげられていたが、職員や市と話し合い、改善へ向けての取り組みがなされている。今回の自己評価は管理者と職員の代表が全職員の意見を聞き取りして作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに7回、おおむね3ヶ月に一度開催している。区長、民生委員、市健康推進課職員、家族代表、代表者とホーム長が参加して、ホームの成り立ち、現状報告や活動報告、意見交換を行っている。会議での意見を活かした取り組みもなされている。		

グループホーム 幸生園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が中心となって、市内の13のグループホームで「グループホームの会（グループホーム宮若）」を設置し、市や、ホーム同士のネットワーク作りを図っており、その中で、市と連携をとり、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が1名おられ、その方に関して他者から電話問い合わせがあったときの事例などあればその都度対応を職員と話し合い意識を統一している。しかし、制度自体に対する職員の知識が曖昧な部分もあり、利用者や家族から求められても説明することは難しい。		定期的な研修参加や勉強会を開催し、職員全員で制度に関する基本的な知識を深め、パンフレットも常備しておき、利用者や家族だけでなく地域の人々に対しても、いつでも説明ができるよう準備しておくことが望ましい。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の暮らしぶりを報告し、今後の介護計画の報告や意見交換を行っている。金銭管理については毎月収支報告書を送付している。また、毎月の活動状況や利用者の様子を写真で掲載したホームだよりを発行し、担当者が家族へ個別にコメントを添えており、定期的及び個々にあわせた報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や苦情を聞く場としているが、あまり言われることはない。また、玄関に意見箱を置いたり、ホーム内および外部の相談窓口を運営規程に明示し、家族が意見や苦情を表せる機会を設けている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者それぞれに担当職員がおり、離職により担当が替わる際には引継ぎ期間を一週間程度設けている。担当制であっても普段は職員全員で利用者を把握しケアにあたっているため、利用者への影響は最小限に抑えられている。		

グループホーム 幸生園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>代表者は職員の採用の際、性別や年齢等により採用対象から除外することはない。また、研修などの希望も考慮して勤務を調整し、その能力や得意分野を発揮して生き生きと勤務できるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員は人権に関する外部研修に参加し、理解を深めている。また、気になることがあればその都度職員同士で話し合い、状況によって管理者や代表者に相談し、人権尊重に努めている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は研修会の案内があれば、その都度職員の経験を考慮して紹介し、可能な範囲内で勤務調整も行っている。受講後は報告書を作成し、閲覧できるようにしている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会での研修会や意見交換会などを通して他のグループホームの職員とも交流を図っている。また、今後は「グループホーム宮若」の会合を通じて同じ地域内のホーム同士の交流を深め、ネットワーク作りをしていく予定である。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス開始前にはホームの見学や、一週間程度の体験入居によりホームの雰囲気を味わってもらうようにしている。入所後は担当職員が付きっきりでケアし、必要に応じて家族の宿泊も可能で、徐々に馴染めるよう工夫している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は介護しているという一方的な立場にならず、共に過ごす中で利用者から料理を教えてもらったり生活の知恵を教わったりしながら、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>思いや意向の把握のためにはコミュニケーションが大切と考えている。必要に応じて、担当職員が訪室し、お茶を頂きながら二人きりでゆっくりと話す時間を設け、そのなかで利用者の思いの把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画作成の際は担当者会議を開き、家族の意見を聞き、担当医師の意見も踏まえて話し合い、計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは3ヶ月に一度、状態変化があればその都度介護計画を見直している。その際は家族や担当医師、担当職員が話し合い、現状に即した計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対して外出や受診の支援や、24時間体制での医師との連携など、柔軟な支援を行っている。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に一度、協力医療機関からの往診があり、訪問歯科なども必要に応じて受けることができる。利用者それぞれのかかりつけ医への受診も職員が付き添い、利用者は個々に応じた適切な医療を受けることができている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間体制で協力医師と連携を図り、希望や状態に応じて看取り先可能である。医療的な処置が必要な場合は病院へ移ることもあるが、いずれにおいてもその時の状況に応じて家族や関係者と話し合い、同意を得て支援している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護計画等の書類は事務所の鍵のかかるロッカーに置かれているが、日々のバイタルなどの記録が廊下の机の上に並べられ、誰でも目につく状態である。		日々の記録は廊下の机の上であり、そこには常時職員がいるようにしている。利用者を見守れる場所であるが、席を外したときなど面会者や利用者に見られる可能性もあるので、机の引き出しに入れるなど、目に付かないようにする工夫が望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールはあるが、それにとらわれずその人の希望に応じ、職員側の決まりごとや時間を優先せず臨機応変に対応することを重視している。利用者は、それぞれのペースで、のんびりと過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて、食事の後片付けを職員と一緒にやっている。職員は利用者の横に立って食事を見守り、必要に応じて介助や声かけをしながら、食事の時間を過ごしている。		前回評価でも一緒に食事を楽しめるよう改善事項があげられていたが、試行錯誤の結果、利用者の状況を考え一緒に食事はとっていない。しかし、共に暮らすなかで一緒に食事を楽しむことの大切さを考え、可能な範囲で横に座り、1品だけ、お茶だけでも頂きながら、同じ目線に立って食事の時間を過ごす工夫が望まれる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日に決まりはなく、日中いつでも入浴できる。拒否のある利用者でも週2回は最低でも入浴するよう勤めている。各ユニットの風呂とは別に大浴場もあり、希望に応じて温泉気分を味わったり、温泉センターに出かける場合もある。夜間の入浴は職員が少ないこともあり、検討中である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の片付けや洗濯物をたたむだけでなく、庭でできた野菜の収穫や花摘み、裁縫、囲碁など利用者それぞれの得意分野や好みを活かしている。また、多くのボランティアがホームを訪れ、生け花教室やリズム体操、陶芸教室、コマ作りなど月に3～4回はあり、利用者の希望に応じて参加し楽しんでいる。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の寺院までの散歩や買い物など、その日の利用者の希望に応じて外出している。また、季節に応じて桜やコスモス見学、初詣など計画をたて、戸外へ出られるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関に鍵はかけていない。近隣住民の理解と協力もあり、万が一利用者が一人で出て行かれた場合も連絡体制が保たれている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に1度行っている。消防士と一緒に、実際に利用者とともに避難して経路の確認をしたり、人工呼吸やAEDの使用方法などの確認を行っている。		職員の人入れ替えでまだ訓練を経験していない職員もいるため、早急に避難訓練の実施が望まれる。夜間想定で避難誘導等の手順なども行うことも重要であると思われる。また、今後は地域の協力体制を築くことにも力をいれ、ますます地域との交流を深めていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて献立を作成し、病気のため管理が必要な場合などは医師の指示をうけ調節している。食事や水分量は毎日記録し、適切な摂取量の確保に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく清潔感があり家庭的な雰囲気である。季節感を取り入れた花や装飾品を取り入れ、心地よくのんびりと過ごせるような空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は持ち込み自由であり、利用者の使い慣れた家具や馴染みのものを使いやすい位置に配置して、居心地良く過ごせるよう工夫している。		